

平成19年度事業報告書

(事業報告の内容)

1. 奨学金の給付

(1) 本年度の給付対象者、給付額

大学院生 21名(うち新規 10名) 1人月額25,000円

(2) 事業の概要

1) 奨学生の採用

本年度も前年同様、次の応募要項をもって募集を行ったところ、応募者は13名であった。選考委員会において、そのうち10名を本奨学生として決定した。

募集要領 応募資格 日本国内の建築及び関連学科を専攻する大学院生
採用人数 10名

奨学金 大学院課程終了まで

提出書類 在学証明書、成績証明書、建築教官の推薦状、大学院における研究テーマの概要

審査 選考委員会において決定した。

2) 奨学金の給付

本年度の奨学生は、前年度採用分10名を加え、総数20名である。

奨学金は、月額25,000円を6カ月分をまとめて、6月と12月に支給した。

2007年度奨学生 (10名) 別紙の通り

2008年度奨学生 (11名) 別紙の通り

2. 奨学生セミナーの開催

(1) 奨学生の指導のための研修会である。

開催 年2回(春、冬)

一回あたり参加人数 20名

一回あたり諸費用 (平均)520,000円

(2) 事業の概要

神奈川大学准教授・曾我部昌史氏、(株)日本設計代表取締役六鹿正治氏を講師に迎え、新旧奨学生参加のもとにセミナーを開催した。

奨学生には、今後の学習、研究面において参考になったようで大変好評であった。

開催日 平成19. 6. 26 神奈川大学准教授・曾我部昌史氏

平成19. 12. 4 (株)日本設計代表取締役六鹿正治氏

3. 研究助成金の支給

平成19年度は、下記の通り8件に対して総額3,700,000円の研究助成金を支給した。

- | | |
|---|----------|
| ① 平成19年6月8日 信州名匠会 | 200,000円 |
| ② 平成20年2月5日 公立大学法人首都大学東京(小泉雅生准教授、都市内のさまざまな活動の記述にかかわる2次元表現手法の研究・開発) | 500,000円 |
| ③ 平成20年2月18日 国立大学法人東京工業大学(塚本由晴准教授、丸の内を事例とした都市の記術方法に関する研究) | 500,000円 |
| ④ 平成20年3月3日 国立大学法人東京大学(千葉 学准教授、東京[丸の内他]の都市調査・都市分析、設計プロジェクトへと反映させる為の理論的構築と実践的検証) | 500,000円 |
| ⑤ 平成20年3月24日 中西泰人(慶応義塾大学准教授、実空間と情報空間におけるアクティビティの統合的な表記法に関する研究) | 500,000円 |
| ⑥ 平成20年3月24日 地主広明(東京造形大学教授、次世代オフィスに関する研究) | 500,000円 |
| ⑦ 平成20年3月24日 仲隆介(京都工芸繊維大学教授、オフィス空間におけるコミュニケーションに関する研究) | 500,000円 |
| ⑧ 平成20年3月27日 国立大学法人東北大学(本江正茂准教授、ITCデザイン研究) | 500,000円 |

4. 優秀作品の表彰及び講演会

(1) 新建築住宅設計競技2007の開催

当財団及び新建築社共同主催による本年度新建築住宅設計競技は、下記課題で行われた。

課題 A House With Resale Value リセール・バリューのある家

リセールできることとは、価値が古びていかないことである。時間の経過と共に、価値が増すようなら、申し分ない。欧米はともかく、アジア、とりわけ日本では、建築は、「築年数の増大＝価値が減る」ということになってしまっている。東京では、驚くべきことに戸建て住宅の平均寿命は20年かそこらである。土地が取引される時、建築がその土地に建っていると、建築の取り壊し費用分が土地代から減額される。これほど建築家にとって嘆かわしい場所はないだろう。

歴史上、最も「リセール・バリュー」の高い住宅とはなんだろう。「ヴィラ・ロトンダ」

(A. パツラディオ)が、参照された回数＝リセールの価値とカウントすればナンバーワン。20世紀に限定すれば、ル・コルビュジエの「ドミノ」だろうか？

20世紀の住宅の「リセール・バリュー」を考えるのが、今回の課題である。何がリセールを成立させる「価値」たり得るのかを考えて提案してほしい。

そして、提案に先立って、周辺(サラウンディングス)を設定してほしい。20世紀の建築は、世界中どこでも再現可能な、周囲に対してスタンド・アローンな「普遍性」だったとするならば、21世紀の現在は、周辺を含めてどうハンドルのかが問われているからだ。局所的な問題を組み立てること、そして最も大切なのは、提案が世界の離れた場所からも共感を呼ぶような、単なる地域主義を超えたものであることだろう。

エントリーする人おのおのが設定した「周辺」と提案との応答性に興味がある。私自身が設計した「Space Block Hanoi Model」(新建築誌2003年9月号)では、異様に細長い短冊状の敷地割りに、高密度に暮らす知恵が詰まっているという状況が出発点だった。「周辺」を「環境」と捉えてもよいし「周囲」と捉えてもよい。そこからもう、思考は始まっている。

この場所は「新建築住宅設計競技」なのだから、「リセール・バリュー」という言葉が単に商業主義に迎合するとか、耐久性やサステナビリティに終始するような提案は期待していないのは言うまでもない。もっと踏み込んで、根源から戦略を考えてほしい。

締切日 2007年 9 月 18日
審査委員 小嶋一浩(建築家)
入選発表、総評 新建築誌 2007年 12 月号

本設計競技において、176点、そのうち海外からは22ヶ国から88点の応募作品が寄せられた。そのうちの入賞作品に対して表彰を行った。

入賞者:

1等(2組、賞金 各40万円)

山根俊輔 (日本)

Jeong Jun Song Ju Hun Lee (韓国)

2等(2組、賞金 各20万円)

瀬戸口洋哉ドミニク 中壽賀嘉将 (日本)

Joon-heon Kim Hae-deun Lee Jae-pil Choi (韓国)

3等(2組、賞金 各15万円)

Nathalie Bredella Katrin Lahusen (ドイツ)

Lim Ai Tiong (シンガポール)

佳作(5組、賞金なし)

細田孝幸、三井寛之、平塚剛史、大槻亮子、水上浩一（日本）
八木利典（日本）
森山茜、日野文美（日本）
Zhenjiang Guo（中国）
Bruno Martins Campos Granado、Lucas Capelini Bathaus、
Vinicius Antonio Falcao de Souza（ブラジル）

(2) 吉岡賞の表彰及び受賞者による講演会

（住宅作品の表彰）

当財団の主催する吉岡賞（住宅設計における新人賞）は回を重ね、平成19年度は第23回、吉岡賞表彰式が下記の通り行われた。吉岡賞は『新建築住宅特集』の新人賞として、住宅作品を通して建築設計の新たな展開に大きな可能性を感じさせる新人の奨励のために、その作品の設計者を表彰するもので、年1回選考が行われる。これは前記『新建築』誌を創刊した、故・吉岡保五郎を顕彰して設けられたもので、故人が設立した当財団の主催により開催される。

今回の審査は『新建築住宅特集』2006年1月号から12月号までの間に掲載された作品に加え、『新建築』誌に掲載された住宅に関係の深い作品を対象にした。

審査はあらかじめ各審査員から推薦候補作品を5点ずつ、計10点を提示していただき、その中から座談会形式で最終審査を行い、今回は下記の2作品が入選と決定した。

受賞作品 垣内光司、下山聡「オモヤ・ハナレ」
中山英之、名和研二「2004」

（吉岡賞受賞者による講演会）

第23回吉岡賞受賞者による講演会『家づくりで考えること』を表彰式と合わせて19年4月13日にリビングデザインセンターOZONEにて開催した。

平成19年4月13日 会場：リビングデザインセンターOZONE

入場者数：60名

講師 (1) 垣内光司、下山聡 受賞作品「オモヤ・ハナレ」

(2) 中山英之、名和研二 受賞作品「2004」

協力 (株)新建築社

5. 講演会の実施

(1) 新建築講演会

当財団が主催する第57回目の新建築講演会は、アメリカ西海岸を拠点に活躍し、2005年にプリッカー賞を受賞したアメリカを代表する建築家トム・メイン氏を迎え、下記のとおり開催した。

日時： 平成20年3月27日（木）
場所： 東京都千代田区丸の内2-1-1 明治安田生命ビル
「MYPLAZAホール」
定員： 300名（入場無料、申込み制・抽選）
講師： トム・メイン
後援： 株式会社新建築社、株式会社エー・アンド・ユー

(2) アイカ現代建築セミナー

当財団が後援をしているアイカ現代建築セミナーは建築文化の向上と発展のために毎年開催されている。本年度は下記の通り開催された。

第56回アイカ現代建築セミナー

講師：ラファエル・モネオ（建築家、スペイン）×榎文彦
テーマ：デザインプロセス

① 東京会場

日次： 平成19年7月10日（火）
場所： 東京都千代田区有楽町1-11-1 よみうりホール
定員： 1,100名（入場無料・申込み制）

② 大阪会場

日時： 平成19年7月12日（木）
場所： 大阪府中央区大手前4-1-20 NHK大阪ホール
定員： 965名（入場無料・申込み制）